

株式会社J様

旧システムの延命・新規システム導入

◆キーワードはシステムの延命

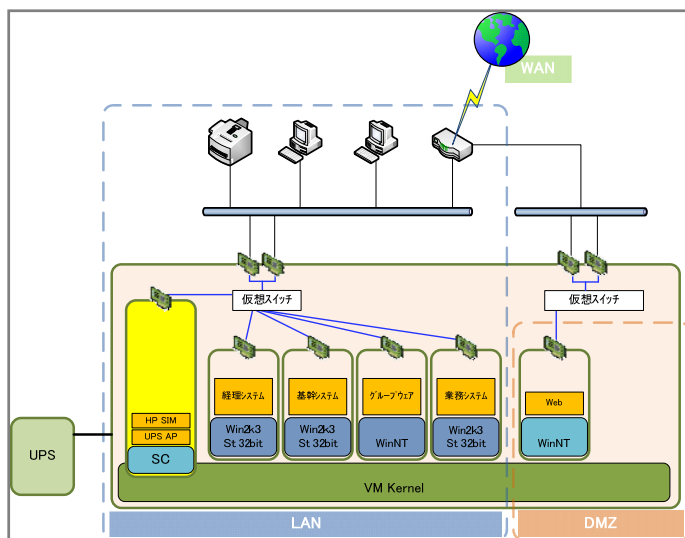
この会社様では、WindowsNTによるシステムが存在し、システムの再構築をするにも費用的・現行のH/Wでは稼働できないと言った問題を抱えていました。そこでVMware社のESXを導入し、NTを延命し、システムの有効活用を可能にした。

また、仮想サーバ上の余ったリソースで新規システムを導入し、H/W費用を削減し、コスト削減につなげました。

VMwareへの統合を行ったことで、シンプルで効率的なITインフラが実現。さらに見逃せないのが、大幅なコスト削減に成功した点だ。担当者は「個別のサーバで構築した場合と比較して、インシヤルコストは20~30%下がる見通しで、電気代や保守費用も減るため、ランニングコストも30~40%削減できると見込んでいます」と力強く語る。

最大数のゲスト OS をサポートする VMware のソリューション

VMware ESX/ESXiは、ほかのどのベアメタル仮想化プラットフォームよりも多くのゲストOSをサポートしています。VMware ESX / ESXiは、特別な修正を行わずに完全に仮想化されたゲストにおいて、優れたパフォーマンスを発揮します。これは、VMware 独自のバイナリ変換テクノロジーによって実現するもので、ESX / ESXi はオペレーティングシステムに変更を加えることなく、物理環境とほぼ同等のパフォーマンスでこれを実行できます。ほかのハイパーバイザーでは、ゲストに修正を加えない場合、パフォーマンスが著しく低下します。また、VMware ESX / ESXi 3.5 はゲスト OS の透過的な準仮想化もサポートしており、単一のバイナリバージョンのオペレーティングシステムを物理ハードウェア上または準仮想化モードのハイパーバイザー上で実行できます。つまり、準仮想化インターフェイスのサポートは、カーネルにコンパイルされており、カーネルが物理ハードウェア上で実行している場合でもサポートは有効です。IBM、Red Hat、XenSource などの Linux コミュニティのメンバーと連携し、準仮想化 Linux ゲストのオープン インターフェイスの標準として、VMware は準仮想化の運用 について共同で定義しました。



お問合せ先



株式会社evolt

E-mail : sales@evolt.co.jp

URL : <http://www.evolt.co.jp/>

〒101-0031

東京都千代田区東神田1-17-10

東神田シティプラザ B1F

TEL : 03-5835-5385